

虫眼鏡の扱い方

関連単元

1.身近なしぜんのかんさつ

- 植物の育ちとつくり
- 自由研究 てかけよう しぜんの中へ
- いろいろなこん虫のかんさつ
- 植物の一生

1.春の自然(4年)

- 夏の自然
- 秋の自然
- 冬の自然

※4年, 5年, 6年の観察でも使用する。

事故防止のために

1

児童へ渡す前の点検

- ①レンズがフレームからはずれそうになっていないか。
 - ②フレームの縁が欠けていないか。
 - ③レンズが割れたりひびが入っていたりしていないか。
- ⇒不都合なものがあれば、使わないで廃棄する。

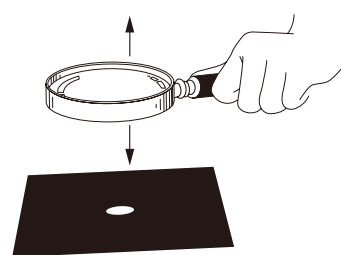
2

使い方の指導

物を見るときにの使い方



日光を集めるときにの使い方



- 目の近くで虫めがねを支え、見たいものを動かして、はっきり見えるところで止める。
- 見たいものが動かせないときは、体を近づけてみる。
- 上下に動かして、距離を調整する。

3

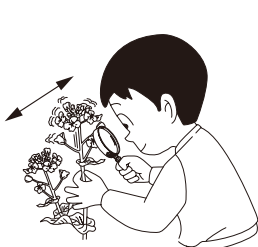
注意点

- 虫めがねで太陽を絶対に見ない。
⇒目をいためて、失明する危険性がある。
- 虫めがねで日光を集めて人の体や服に当てない。
⇒やけどをしたり、服が焦げて穴があく。
- むやみに日光を集めて物に当てない。
⇒物を焦がし、発火することもある。
- 日光を集めて温度計の液だめに当てない。
⇒温度計の液だめが急激にあたためられ、沸騰して危険な状態になる。
- 日光の当たる所に置いておかない。
⇒置く場所によっては、集光作用が起こり、発火するおそれもある。
- 学習が終了した後、貸し出したときの数が返却されているか、レンズが割れていないか、ひびが入っていないか、汚れていないか等を確認する。
⇒虫めがねの回収は必ずする。
⇒割れたりひびが入ったりしたものは廃棄する。
⇒汚れているものは、柔らかい布などを使ってきれいにする。
- 屋外で使用了後は、レンズに砂塵がついていないか確認する。
⇒砂塵がついていたままふきとるとレンズに傷をつけるので、砂塵をカメラ用のレンズブローなどで吹き飛ばした後、柔らかい布などできれいにする。

虫めがねのあつかい方

● 使い方

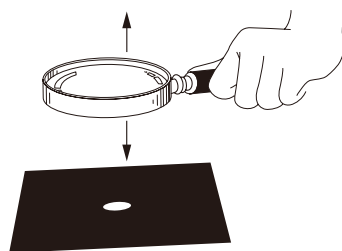
もの
物を見るとき



- 目の近くで虫めがねをささえ、見たいものを動かして、はっきり見えるところで止める。

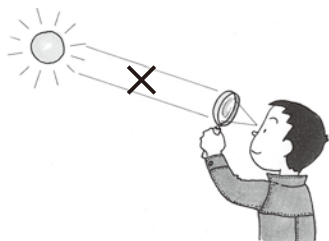
- 見たいものが動かせないときは、体を近づけてみる。

日光を集めるとき

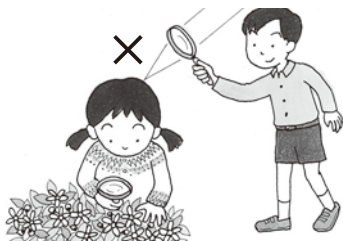


- 虫めがねを上下に動かして、紙の間のきよりを^か変える。

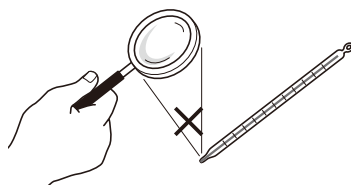
● 気をつけること



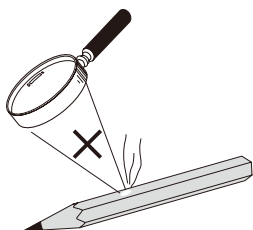
- 目をいためるので、ぜったいに太陽を見ない。



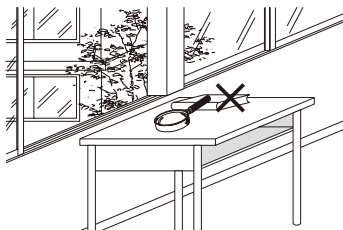
- 日光を集めて人の体やふくに当てない。



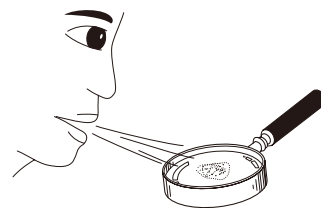
- 日光を集めて、温度計のえきだめに当てない。



- むやみに日光を集めてものに当てない。



- 日光の当たる所においておかない。
⇒ おく場所によっては日光が集まり発火^{はっか}することがある。



- レンズにきずをつけない。
⇒ レンズに細かいすななどがついたときは、ふきとるとかえってレンズをきずつけるので、ふきとばす。